



(1) 魔物が棲む? 「猫の曲がり」

築地塀の南東の隅は魔物が棲んでいる場所だと考えられていました。

猫の曲がりという名前は、明治時代まで四神の一つである白虎の像が置かれており、これが猫に見えたことからこう呼ばれるようになったそうです。

現在でも花嫁を乗せた車はここを通らないという暗黙の了解があるそうですよ。

(3) 天から降ってきた石、 「天降石(てんこうせき)」

御影堂の一角にある石。
四方80センチ程度のこの石は天から降ってきた石と言われ、天降石や撫石と呼ばれるようになりました。

天降石にお賽銭やお米を供えて石を撫で、その手で自分の身体の良くないところを撫でると治ると言われていることから、石はピカピカに光っています。



(5) 寺宝を納めていた、「宝蔵(ほうぞう)」

弘法大師が唐の国師、恵果から授かった密教法具や両界曼荼羅、毘陀穀糸袈裟など数多くの寺宝を納めていたところでした。
校倉造りで現在使用されている瓦は平安時代のものが多く残っているそうですよ。

(7) 五重塔の傾きを戻した、「瓢箪池(ひょうたんいけ)」

五重塔の北にある池で、蓮の名所として知られ、現在は庭園の周囲には四季折々の草花が咲き誇り庭園散策ができます。

この池は江戸時代に強風が吹き、この傾きを戻すため、反対側に大きな穴を掘って傾きが戻ったそうです。
その穴に雨水が溜まり、瓢箪池となりました。





(6)不動明王が見送った、「蓮華門(れんげもん)」
壬生通りに面した門で、東大門と同じ「不開門」という
名前がありますが、こちらはあかずのもんと呼びます。
現存する東寺の中では最古の門となっています。
弘法大師が高野山に隠棲する際、不動明王がこの門
で涙を流して別れを惜しみ、弘法大師の足元には蓮華
(はす)が咲いたことからこの名がついたそうですよ。



(2)閉ざされたままの門、「不開門(あけずのもん)」

不開門は大宮通りに面した東大門のこと。
1336年、後醍醐天皇を攻めた足利尊氏の軍は
東寺に陣をおき、窮地にたたされます。
新田貞義が東寺を攻めに來た時、尊氏は東大
門の門を閉めて難を逃れました。
現在もその矢傷の跡ので「矢の根門」と呼ばれ
ています。
それ以来、豪雨により一度だけ門は開いてしま
ったそうですが、現在も閉ざされたままになって
います



(4)簡素な門、「穴門(あなもん)」
南大門から西へ行ったところにとっても簡素な門があります。
これは穴門または畜生門と呼ばれ、江戸時代に男女関係
で道德に反した僧を破門するための門として使われてい
たそうです。
破門された僧は着ている袈裟衣を取られ、この穴門から
外へ放り出されたそうですよ。

萬福寺

天王殿の正面に、大きな布袋像があります。

こちらは、来たときと帰るときの2回、
お参りするとよいそうです。

来たときお参りすると、厄を取り除いてくれ、
帰るときには、福を授けてくれるのですね。

ちなみに、7つの寺社のうち、ここだけ
拝観料1人500円が必要です。

徳川四代将軍家綱が、隠元禅師に
開かせたというお寺は、中国的な雰囲気があり
ますし、予約すれば、中国の精進料理・普茶料
理を味わうこともできますので、時間があれば、
ぜひ、ゆっくり見てまわってくださいね(^^♪

【萬福寺】

宇治市五ヶ庄三番割

0774-32-3900

[HTTP://WWW.OBAKUSAN.OR.JP/](http://www.obakusan.or.jp/)



泉涌寺七福神めぐり

天皇家からも篤く信仰された御寺

真言宗泉涌寺派の総本山。皇室との関連が深く『御寺(みてら)』とも呼ばれる。

したがって朝野の尊信篤く、後鳥羽・順徳上皇、後高倉院をはじめ、北条政子、泰時も月輪大師について受戒するなど、公家・武家両面から深く帰依された。大師入滅後も皇室の当寺に対する御帰依は篤く、仁治3年(1242)正月、四条天皇崩御の際は、当山で御葬儀が営まれ、山陵が当寺に造営された。その後、南北朝～安土桃山時代の諸天皇の、続いて江戸時代に後陽成天皇から孝明天皇に至る歴代天皇・皇后の御葬儀は当山で執り行われ、山陵境内に設けられて「月輪陵(つきのわのみさぎ)」と名づけられた。こうして当山は皇室の御香華院として、長く篤い信仰を集めることとなる。泉涌寺が「御寺(みてら)」と呼ばれる所以である。

名は、鎌倉初期に月輪大師俊芿(しゅんじょう)が宋の法式を取り入れて、大伽藍を営むことを志した際、敷地の一角から清水が湧き出たことから改称された。

